

2019 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

第2回

フードバンクこども支援プロジェクト 事業報告書



2020年3月



特定非営利活動法人 セカンドハーベスト京都

第2回 フードバンク子ども支援プロジェクト 事業報告書

目次

はじめに.....	2
セカンドハーベスト京都の概要.....	3
フードバンク子ども支援プロジェクトの概要.....	4
事業報告	
①利用者募集.....	5
②食品の調達.....	6
③周知・広報.....	7
④食品の出荷.....	9
⑤利用者の声.....	11
おわりに～今年度の総括と次年度への抱負～.....	22



はじめに

京都のフードバンク団体である私たちセカンドハーベスト京都は、今年度、第2回「フードバンク子ども支援プロジェクト事業」を実施いたしました。

セカンドハーベスト京都では、2015年の団体発足当初より「子どもの貧困問題」にコミットすべく、子ども食堂支援事業などを展開してきましたが、いわゆる「貧困コア層」の切実なニーズにはほとんど応えられていないと実感させられることが多々ありました。

そんななか、フードバンク山梨の「フードバンク子ども支援プロジェクト」を知り、京都でもぜひ実現したいと考え、昨年度、全国で6番目、西日本では初のプロジェクトを試行実施しました。

その結果、一定の成果が得られたことから、事業として継続していくこととし、2回目となる今年度は規模を拡大して本格実施に移しました。設立4年目の団体にとってはまだまだ荷の重いプロジェクトではありますが、昨年度の実験を礎に、多くの皆様のご支援ご協力も得て、なんとか無事完遂することができました。

ここに事業報告を行うにあたり、事業主旨を評価し、助成していただいた独立行政法人福祉医療機構をはじめ、事業にご協力いただいた京都府・京都市・八幡市の関係各部署の皆様、食品をご提供いただいた企業・団体や一般市民の皆様、クラウドファンディング等を通じて資金援助してくださったパトロンの皆様、作業に協力してくれたボランティアの皆さん、その他多くの方々に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



特定非営利活動法人 セカンドハーベスト京都
理事長 澤田 政明

セカンドハーベスト京都の概要

「フードバンク」は、さまざまな理由で市場に流通できなくなった食品や一般家庭などの余剰食品を食を必要とする人やその支援団体に無償で提供する活動です。1960年代にアメリカで始まり、日本でも現在80以上の団体が活動しています。

セカンドハーベスト京都（以下、2HK）は、「**食品ロス削減とフードセーフティネットを両立させる社会インフラのひとつとなること**」をミッションとして、2015年12月に団体設立、2016年12月に法人設立したフードバンク団体です。

企業・団体や個人の皆様からご提供いただいた食品を生活困窮者支援団体、福祉施設などに無償でお届けする「定期配送」のほか、行政や支援施設の要請で生活困窮者に食品を緊急支援する「食のセーフティネット」などの活動を行っています。また、ご家庭で余った食品を商業施設やイベント会場に持ち寄っていただく「フードドライブ」活動も定期的を実施しています。

■活動イメージ



■活動実績

	第3期 (2018年12月~2019年11月)	第2期	第1期
食品提供者 ※フードドライブ 除く	法人：44団体（一般企業11、食品関連企業8、宗教団体4、行政3、医療関連法人2など） 個人：59名	法人：43団体 個人：46名	法人：36団体 個人：45名
食品取扱量	年間21.6トン（前年比+14%）	18.6トン	14.0トン
食品配送先 ※緊急支援含む	食品配送先：48団体 （DV被害者支援施設1、フードバンク団体2、行政6、生活困窮者支援団体4、子ども食堂16、児童養護施設6、自立援助ホーム1、社会福祉協議会4、生活支援施設2、母子生活支援施設3、地域包括支援センター1、訪問介護事業所2） 延べ利用者：18,042名	67団体 19,813名	61団体 約13,000名

フードバンク子ども支援プロジェクトの概要

「フードバンク子ども支援プロジェクト」は、**学校給食のない長期休暇（夏休み、冬休み）中に就学援助受給世帯などに対して食品を直接送付する取り組み**です。

その背景にあるのは貧困問題です。かつて「1億総中流社会」といわれた日本も近年は格差の拡大が進み、7人に1人が平均所得の半分以下の収入で暮らしています（相対的貧困）。貧困世帯の中には、学校給食のない長期休暇中に十分な食事を摂ることができず、健康を損なうこともあります。こうした事態への懸念から、2015年にフードバンク山梨が全国で初めて同プロジェクトを実施し、これをロールモデルにした取り組みが各地に広がりました。



2HKが拠点を置く京都府においても貧困問題は深刻で、相対的貧困率は全国平均を上回るといわれています。子どもの貧困も大きな問題となっており、**学校教職員の方々から「休み明けに痩せて登校してくる生徒がいる」という声を幾度となく聞くようになりました。**

そこで、2HKでも新たな事業として同プロジェクトを実施したいと考え、2018年は「試行実施」と位置づけて事業に取り組みました。その際、食品送付希望者（利用者）へのアンケートも同時に行ったところ、これまであまり可視化されていなかった低所得子育て世帯の厳しい生活実態が明らかになり、本プロジェクトの有効性が検証できました。こうしたことから、今後も事業を継続すべきと考え、第2回プロジェクトに取り組みました。

助成事業の概要	
助成事業名	フードバンク子ども支援プロジェクト
事業期間	2019年4月1日～2020年3月31日
助成額	6,478,000円
事業の内容	①食品ロス削減 食品関連企業や防災備蓄食品を保有する企業に食品提供を働きかける、市民に食品寄付を募る ②子ども支援 就学援助受給世帯などに本プロジェクトの案内を行い、希望する世帯に食品を直接送付する

事業報告①利用者募集

本プロジェクトは、地元行政の協力の下、支援対象の「低所得子育て世帯」にプロジェクトを知っていただくところから始まります。2018年は支援対象の設定、案内文の配布方法などで試行錯誤を繰り返しましたが、今年度は前年の経験を活かし、スムーズに進めることができました。

■支援対象の設定

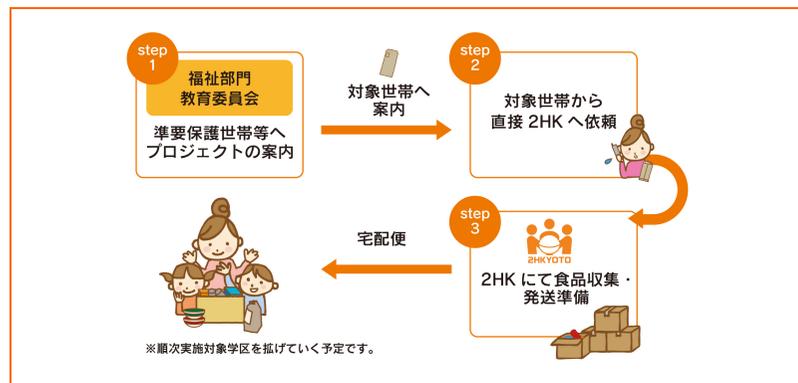
初年度の2018年は試行実施ということもあり、限定エリアでの実施となりましたが、2回目の今年度は対象範囲を拡大して行いました。

具体的には、京都市では市教育委員会を通じて各小学校校長に本プロジェクトを告知し、参加を希望された市内6小学校で実施しました。八幡市では、市内8小学校すべてで実施しました。

支援対象世帯については、両市とも就学援助受給世帯（準要保護世帯）としました。これは、生活実態としては要保護世帯（生活保護費受給世帯）より厳しいにもかかわらず、十分な支援が受けられていないケースが多い、との認識によるものです。

■案内文・申込書の配布

対象世帯の保護者への案内文と申込書配布は、以下のような方法で実施しました。



	配布方法	配布数	申込数
京都市（6小学校）	各小学校より保護者連絡用「通い封筒」に封入して配布	344世帯 （就学援助受給世帯）	79世帯
八幡市（8小学校）	市教育委員会より対象世帯に直接郵送	759世帯 （就学援助受給世帯）	158世帯
	計	1,103世帯	237世帯

事業報告②食品の調達

フードバンク活動で支援先に提供する食品は、企業・団体や市民の皆様が寄付して下さった食品です。本プロジェクトでも多くの方々に食品寄贈のご協力をいただきました。また、クラウドファンディングなどによる寄付金も食品購入に充てました。

■食品寄贈

今回のプロジェクトでは、以下の方々にご提供いただいた食品を使用しました（順不同、敬称略）。

- 中京区 荒木敬子 ○伏見区 石原広嗣 ○左京区 伊東知康 ○伏見区 澤田敏子
- 伏見区 財津信幸 ○城陽市 鹿野啓子 ○宇治市 永松英高 ○京丹後市 吉岡浩
- 株式会社松風 ○近畿経済産業局 ○マルコム株式会社 ○株式会社ローソン
- 京都フードセンター ○三洋化成工業株式会社 ○日本ケロッグ合同会社
- 京都トヨペット株式会社 ○ならファミリー管理事務局 ○学校法人龍谷大学農学部
- アルフレッサファーマ株式会社 ○ウエストビレッジフーズ株式会社
- 京都市京都マラソン実行委員会事務局 ○品川インターシティマネジメント株式会社
- 一般財団法人日本非常食推進機構 ○特定非営利活動法人フードバンク山梨
- コストコホールセールジャパン株式会社京都八幡倉庫店
- 一般財団法人日本バプテスト連盟医療団総合病院日本バプテスト病院
- フードドライブにご協力いただいた京都府民の皆様



■食品の購入

今年度は申込者が昨年度より大幅に増えたこと、寄贈食品のみでは栄養バランスに偏りがあることなどから、クラウドファンディング（後述）などの寄付金も食品購入に充てることとし、牛乳、野菜ジュース、シリアルなどを購入しました。



事業報告③周知・広報

事業報告③周知・広報

本プロジェクトの周知・広報活動としては、2HK のホームページを通じて随時情報発信を行ったほか、報道機関向けプレスリリースの発行、ポスター掲示・チラシ配布、クラウドファンディングなどを実施しました。

■ホームページ

2HK ホームページ内に本プロジェクトの概要を紹介するページを新設したほか、出荷作業ボランティアの募集もホームページで実施しました。また本プロジェクトに関する最新動向についても、ブログやフェイスブックを通じて昨年以上に頻繁に情報発信しました。



■プレスリリース

報道機関向けプレスリリースは、プロジェクト実施のお知らせ（6/10）、第 2 次出荷作業のお知らせ（8/7）、第 3 次出荷作業のお知らせ（12/10）の計 3 回発行しました。その結果、以下のメディアで報道していただきました。

新聞	毎日新聞 京都版	1月23日	朝刊掲載
	毎日新聞 京都版	6月22日	朝刊掲載
	朝日新聞 東京版	7月26日	夕刊掲載
ラジオ	KBS 京都ラジオ	7月18日放送	「さらピン！キョウト」 理事長出演
	KBS 京都ラジオ	7月20日放送	「羽川英樹の土曜は旅気分」 理事長出演
	KBS 京都ラジオ	8月14日放送	「さらピン！キョウト」 理事長出演
	KBS 京都ラジオ	9月29日放送	「久米村直子の Super Duper Sunday ～京都岡崎であい・いきいき！スペシャル！」 理事長出演

■ポスター掲示、チラシ配布

プロジェクトへの協力を呼びかけるポスター（A2判）とチラシ（A4判両面）を作成し、ポスターは企業団体、商業施設などへの掲示をお願いしました。チラシも企業団体などに配布をお願いしたほか、フードドライブ実施時などに配布しました。



■クラウドファンディング

6月10日～8月28日の80日間、クラウドファンディングサイト「CAMPFIRE」で「こどもたちの『お腹減った』をなくしたい！生活困窮家庭への食料支援プロジェクト」と題し、プロジェクト PR とパトロン（支援者）募集を行いました。



目標金額 150 万円に対して支援総額 33 万 7,500 円（パトロン数 39 人）と目標を下回ってしまいましたが、京都地域創造基金（実施期間 2019 年 12 月 1 日～2020 年 11 月 30 日、目標金額 250 万円）などを通して 100 万円を超える寄付があり、それらを合わせるとほぼ目標額を達成しました。

事業報告④食品の出荷

食品の出荷は夏2回、冬1回の計3回実施しました。昨年に引き続き、京都府立京都八幡高等学校南キャンパスの皆さんに全面的にご協力いただいたほか、スポット参加のボランティアも新たに加わり、昨年以上にスムーズで効率的な出荷作業となりました。

■食品構成と出荷量

各家庭に送付する食品は、精米・レトルトごはんのほか、パン、シリアル、インスタント麺、牛乳・豆乳、野菜ジュース、スープ・みそ汁、調味料、缶詰、レトルト食品、栄養補助食品、菓子・スナック類など、できるだけバラエティに富み、栄養面にも配慮した構成としました。

1家族当たりの食品出荷量は、第1回=9.3kg、第2回=10kg、第3回=15kgと、回を追うごとに増加しました。



第1回出荷



第2回出荷



第3回出荷

■出荷作業

出荷作業は7月20日、8月10日、12月21日の計3回実施しました。各回とも京都府立京都八幡高等学校の教室をお借りし、同校ボランティア部の皆さんが参加してくださいました。

また、今年度は新たに出荷作業へのスポット参加ボランティアをホームページ上で募集したところ、社会人サッカークラブ「おこしやす京都 AC」の選手・スタッフをはじめ、個人参加で大学生・社会人の皆さんも参加してくださいました。

出荷作業については、食品数量の増加による作業負担増が予想されたため、ローラーコンベアを導入し、第1回出荷時から使用しました。その結果、作業効率が大幅に向上し、時間短縮が実現できました。また、昨年度は梱包後の荷物を2HK車両に搭載し、郵便局へ持ち込んでいましたが、今年度は作業場所に宅配会社に集荷してもらった方法に変更したため、一層の負担軽減となりました。



出荷作業にご協力いただいた方々に感想をお聞きました

◆京都府立京都八幡高等学校副校長・渡邊正明さん

当校のボランティア部は地域のさまざまな活動に参加していますが、今回のように多様な年齢、職業の方々と一緒に活動する機会は多くありません。多感な時期にこういう経験をしたことは、生徒達にとって非常によい社会勉強になったと思います。父兄の方からも「子供が成長したと感じる」と聞いており、嬉しく思っています。

◆同校ボランティア部顧問・菊藤善治さん

日本でも貧困世帯が増えていると聞きますが、普段はなかなか実感できません。しかし昨年の活動に参加した部員の友人が「食品を送ってもらいました」とSNSに上げたことから、生徒達は「決して遠い世界の話じゃない」と知りました。活動を通していろいろ考えるきっかけになり、本当に良かったと思います。来年もぜひ参加したいです。

◆同校ボランティア部部长・平唯羽さん

昨年度から参加しています。作業は大変でしたが、報告書をいただき、アンケートの感想を読んで「喜んでいる人がいる」と知りました。実際に食品を受け取った人の顔は見えないけれど、どこかで喜んでいる人がいるのだから今年も頑張ろうと思いました。それにしても食品が多くてびっくり！これだけの量を集めるなんてすごい！と思いました。

◆おこしやす京都 AC・和田神平さん

日本のこどもの7人に1人は貧困状態にあると聞きます。これまで貧困問題といえば海外の話と思っていましたが、今回のプロジェクトを通じて日本の問題でもと気づきました。フードバンク活動は食品ロスの有効活用にもなり、大変いいことだと思います。出荷作業は効率的で、スムーズに進みました。よく考えられていると思いました。

◆関西大学社会学部4回生・吉永夏希さん

卒論テーマに食品ロスを選んだことから、フードバンク活動を体験してみたいと思い、ネットで検索して今回のプロジェクトを知りました。ボランティアに参加するのも初めてでしたが、他の方々が親切に教えてくれたので楽しく作業できました。実際参加してみて、企業との連携なども進んでいることが分かりました。貴重な経験になりました。



第1回：7月20日（土）
参加人数 23名



第2回：8月10日（土）
参加人数 19名



第3回：12月21日（土）
参加人数 24名

事業報告⑥利用者の声

事業報告⑥利用者の声

本プロジェクトの支援対象である低所得子育て世帯の生活実態を把握し、今後の活動の指標とするため、利用者へのアンケートを実施しました。その結果、食品送付への感謝の声が数多く寄せられた一方、経済状況や将来への不安の声も多く、支援の必要性を再認識させられました。

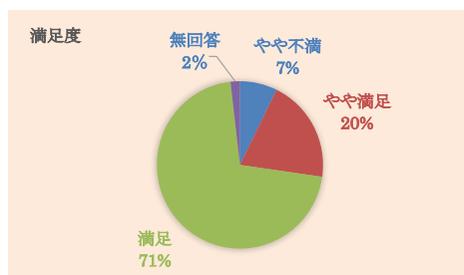
■アンケート調査

立命館大学産業社会学部現代社会学科の石田賀奈子准教授に調査票を作成していただき、7月20日の第1回出荷時に同梱したところ、237名のうち110名から回答がありました（回収率46.4%）。

●プロジェクトへの評価

プロジェクトの満足度は、満足（78名）、やや満足（22名）を合わせ、90%以上の利用者がおおむね満足と回答しました。やや不満は8名、無回答は2名でした。

項目別では、「食材の受け渡し方法のわかりやすさ」が最も評価が高く、「申し込み方法のわかりやすさ」「3食食べることができた」「不安が軽くなった」などの意見がそれに続きました。不安感や孤立感、孤独感の解消にまでは至らないとしても、本プロジェクトが利用者の不安や負担の軽減に貢献できることが示されました。



プロジェクトの評価項目	はい	いいえ	無回答
1. 申し込み方法はわかりやすかった	88.2%	10.0%	1.8%
2. 食材の受け渡し方法はわかりやすかった	97.3%	0.9%	1.8%
3. あなた自身の不安が軽くなった	86.4%	11.8%	1.8%
4. 孤立感や孤独が軽くなった	78.2%	19.1%	2.7%
5. 食物が不足する心配がなくなった	78.2%	20.0%	1.8%
6. 3食食べることができた	91.8%	6.4%	1.8%
7. 食費以外にお金が回せた	78.2%	20.9%	0.9%
8. 親子の会話が增进了	80.9%	15.5%	3.6%
9. あなた自身の健康への不安が軽くなった	70.0%	28.2%	1.8%
10. お子さんの健康への不安が軽くなった	75.5%	22.7%	1.8%

●今回「あってよかった」食材

今回、最も喜ばれた食材はお米だったようです。「子供の人数が多いのですぐ助かります」という声のほか、「重たい物を買って帰るのが大変だから」という意見もありました。また、こどもでも調理しやすいそうめん、レトルト食品なども「よかった」という声が多く寄せられました。望むと望まざるとにかかわらず、こどもたちだけで食事している世帯の多さがうかがえました。

●今後「あればいいな」と思う食材

今回喜ばれた米やレトルト食品などの継続支援のほか、果物、野菜などを挙げる声が多く聞かれました。普段はそうした食材を購入すること、食卓に並べることが難しい家庭の状況が浮かび上がってきます。

●プロジェクトについての感想、意見など

自由記述では「思っていた以上にたくさんの種類が入っていて良かった」「たくさんの食材、保存食助かりました。こんな支援が広がり、栄養不足の子がいなくなれば良いと思います」など、食材のバリエーションが豊かであること、すぐに使えるものが多く、家事の負担が軽減されたことなどが評価されました。

一方で、見慣れない食材については抵抗感もあり、「昼間こどもだけで食べさせるようなものは、スーパーでよく見かけるものにしてもらえると思えばいいと思う」などの意見も寄せられました。手に取りやすい工夫や、調理レシピをつけるなどの工夫も検討する必要があることが示唆されます。

●支援制度・サービスの認知度、利用経験

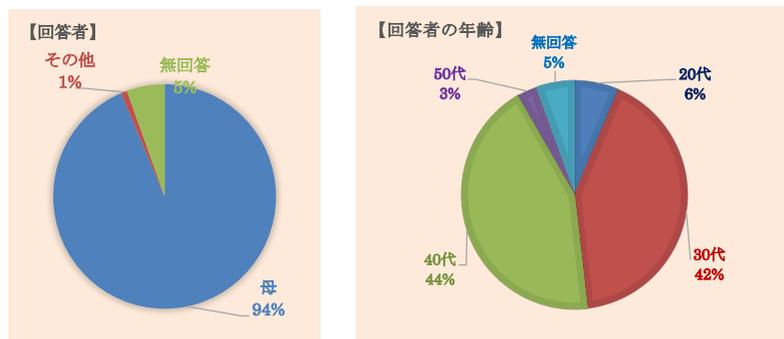
子育てに対する支援制度やサービスの認知度、利用経験について尋ねたところ、学級担任やスクールカウンセラーは80%を超える認知度となりました。一方で利用経験は学級担任でも50%程度で、その他は総じて低水準でした。子育て支援の社会資源は多いものの、現実のニーズにマッチしていない可能性が考えられます。

	認知度	利用経験
1. 児童相談所からの助言や支援を受ける	56.4%	19.4%
2. ファミリーサポートを利用する	47.3%	21.2%
3. 民間の託児サービスを利用する	53.6%	6.8%
4. スクールカウンセラーに相談する	80.0%	25.0%
5. 子ども食堂を利用する	60.9%	9.0%
6. スクールソーシャルワーカーに相談する	49.1%	13.0%
7. 学級の担任に相談する	80.9%	51.7%
8. トワイライトステイを利用する	11.8%	7.7%
9. 地域の民生委員や児童委員に相談する	58.2%	17.2%
10. ショートステイを利用する	23.6%	7.7%
11. 家事支援（掃除・洗濯・調理など）サービスを利用する	34.5%	2.6%
12. お子さんが学習支援団体による学習ボランティアを利用する	31.8%	34.3%

●回答者の属性

回答者の94%（103名）が母でした。その他は祖母（1名）でした。

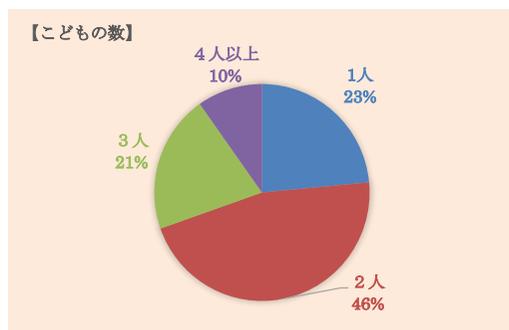
回答者の年齢は、40台が43.6%と最も多く、次いで30代の41.8%となりました。



●家族構成

子どもと同居している家族の構成を聞くと、母のみという世帯が最も多く、父のいる世帯は40%でした。祖父母との同居は祖父（3.6%）、祖母（8.2%）、その他、おじやおばがいる世帯、曾祖母のいる世帯などが2.7%となりました。多くの世帯でお母さんが育児も就労も担っている状況がうかがえます。

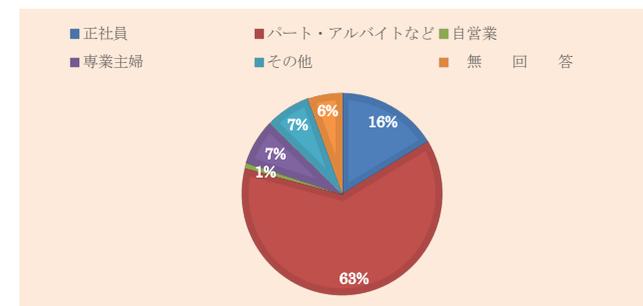
子どもの数は、2人という世帯が最も多く、46%を占めました。



●就労状況

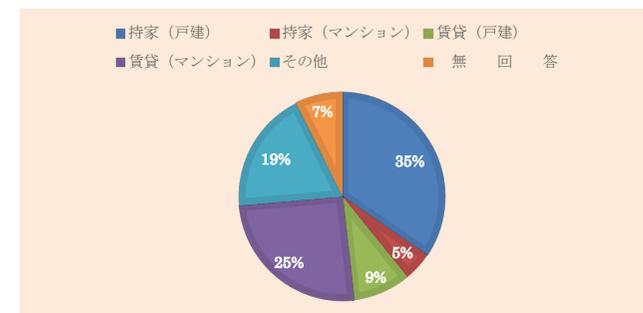
回答者の就労状況は、パートやアルバイトなどの非正規雇用が62.7%、正社員が16.4%でした。今回の調査では明らかにできていませんが、事前のヒヤリングなどでは複数のパートを掛け持ちして家計を支えているという声も多く、不安定な就労環境の中で子育てしている状況がうかがえました。また、お子さんの障がい、回答者自身の病気など、さまざまな事情で正社員として働くのが難しいケースもあるようでした。

自由記述では「かんばって働いて給料が少し上がると、市民税を払うようになり（それまで免除されていた）学童保育料も発生するなど、結局出ていくお金が増えてしまう」という意見もあり、一度生活が困難な状況になると安定した生活に戻るのが難しい制度上の問題も読み取れます。



●現在の居住形態

現在の居住形態は、持ち家の戸建てが34.5%と最も多く、次いで賃貸マンションの25.5%となりました。ただし、今回の調査では住居の所有者が誰かは問いませんでしたが、持ち家と回答した人の中には「祖母の持ち家」「両親の持ち家」に住まわせてもらっていると追記されていたケースも少なくありませんでした。生活が苦しく、賃貸住宅を借りることも困難な状況がうかがえます。



●世帯の家計状況

1カ月の収入は、15万円から20万円という世帯が22.7%と最も多く、20万円未満が回答者の41.8%を占めました。また、家賃が1カ月の支出の50%に上るケースもあり、万々に備えての貯蓄はもちろん、こどもの習い事や余暇活動にも予算を回すことが難しい様子が浮かび上がります。



●生活保護の利用

「以前受給していた」「受給を予定している」を含め、生活保護制度を必要とするほど困難な状況にある世帯は9%に上りました。一方、受給していない世帯が87.3%を占めました。日本では生活保護に対するスティグマ(世間から押しつけられる負の烙印)から、申請をためらう人が多いと指摘されています。

今回の調査でも「生活保護を受けたいが、壁があつい」「働いても働いてもお金がない」「給料が安すぎる。自転車操業でしか生活ができない」「頼れる身内はなく、借金があり、仕事は不規則でハード」「毎月が赤字で将来が不安になる」「物価は上がっているのに給料は上がらない。貧困から抜け出すなんて100%無理」等々、苦しい胸の内を明かす声が数多く寄せられました。生活保護水準、もしくはそれ以下の世帯収入で、ギリギリの生活をしている人が少なくないと推察されます。

生活保護を 現在受給している	2.7%
以前受給していた	4.5%
受給していない	87.3%
受給を予定している	1.8%
無回答	3.6%

●児童扶養手当受給の有無

70%以上の回答者が現在、児童扶養手当を受給していると回答しました。このことから回答者の厳しい経済状況がうかがえます。

児童扶養手当を 受給している	72.7%
受給していない	22.7%
無回答	4.5%

●ひとり親世帯の養育費受領の有無

ひとり親世帯のうち、養育費を受け取っているのは10%、受け取っていないのは43.6%でした。相手と連絡が取れない、支払い能力がないなど、さまざまな事情で養育費を受け取れていないことが明らかとなりました。なお、無回答にはひとり親ではない世帯も含まれています。

養育費を 受け取っている	10.0%
受け取っていない	43.6%
無回答	46.4%

●最近1年以内に経験した出来事

最近1年以内に経験したことを尋ねた質問では、「体調を崩して寝込んだことがあった」「お子さんの習い事を諦めた」「誰にも相談できないと感じた」の順となりました。

	経験ありの比率
1. 家賃を滞納した	6.4%
2. 光熱費を滞納した	15.5%
3. あなたご自身が体調を崩して寝込んだことがあった	44.5%
4. お子さんの学校や園に支払うお金を滞納した	12.7%
5. 1週間のうちに一日3食食べられない日があった	11.8%
6. お子さんの習い事を諦めた	36.4%
7. お子さんの不登校に悩んだ	12.7%
8. 同居の家族に介護が必要であった	4.5%
9. 自分の悩みを誰にも相談できないと感じた	21.8%

■アンケート調査結果の考察

調査票を作成していただいた立命館大学の石田賀奈子准教授に、アンケート調査結果についての考察と提言をいただきました。

①フードバンク子ども支援プロジェクトについて

子ども支援プロジェクトは、多くの利用者にとって満足していただける内容であることが調査からも明らかになりました。使って良かった、ニーズが満たされた、と思っただけだったことが、子育ての不安や負担の解決につながることでないとしても、困難な状況の中で子育てしている方の不安感の軽減に一定程度貢献できる取り組みであることが明らかになりました。

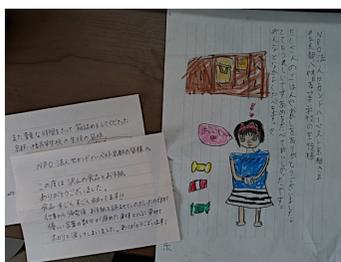
自由記述からは、大人の就業などを理由として、子どもたちだけで食事をとる機会の多いことがうかがえました。困難な状況にある世帯は就労していても十分な収入につながっておらず、結果として子どもたちの食事に、食事内容、食事形態（誰が調理するか、誰と食べるか等）など、さまざまな形で影響を与えています。そうした状況に対して、こちらから食材を届けていくことが、不安や負担の軽減にわずかではあっても貢献できる取り組みであることがうかがえます。

一方で、提供される食材を家庭でどのように摂取してもらえば子どもの栄養につながっていくか、工夫していくことも必要であることが考えられます。たとえばレシピを添付するなど、今後の課題として検討していく必要があります。

②プロジェクトを必要とする世帯の状況について

子どもの習い事や進学費用、通常の保育料や、子どもが熱を出した時の病児保育など、育児にまつわるさまざまな支出に多くの方が頭を悩ませておられる現状が浮かび上がります。また、消費税の増税など、消費行動に大きな影響を与える社会情勢の変化にも悩んでおられる方が少なくないと推察されます。

子どもの貧困、そして子育てをする親たちの貧困の問題は、食材の配達だけでは解消しえない深刻な社会問題です。引き続きこうしたプロジェクトを企業と力を合わせて取り組んでいくほか、さまざまなサービス、制度の充実もあわせて社会が検討していくことが求められます。



■アンケートはがき

12月21日の第3回出荷時には簡単なアンケートはがきを同梱し、本プロジェクトを利用した感想などを自由に記述していただきました。その一部をご紹介します。

とても助かりました。とてもうれしく感謝の言葉を
 送らせていただきます。大切に頂いてありがとうございます。
 消費税が上がると、食費も増え、子育ては
 大変です。お手紙もかきにくく思っています。
 早くお返事を頂きたいです。本当にありがとうございます。
 詳細はわかりませんが、大阪、企業、経営者、
 私立高等学校の生徒さん、ボランティアさん
 などに、お礼の言葉を送らせていただきます。
 ありがとうございます。

.....この度は本当にありがとうございます。さ
 りました。毎日のようにWワーク
 で働いて、それでも夕食がやっと
 買える日々。小学校の長期休みが
 くるたびに、昼食がどうにもならない
 中で、本当に良いタイミング
 で自宅へ届けていただきました。
 冷蔵庫が空の中で再配達も待た
 ず、それが何度もある中で、ホッと
 しているといふほど、本当に感謝の
 ことか。本当に感謝しています。

大変助かりました。ありがとうございます。箱を開けた時は
 子ども達と一緒にワクワクしながら開けた。子ども達の喜ぶ
 姿が見られ、私も嬉しかったです。このお礼の言葉は、
 元々皆さんの善意で行われている事を、今回大変家
 族は、いざという時に手助けしてもらって本当に感謝
 しています。大人に当たった時は、こちらに話かけられる
 人間になりたいです。子ども達も喜ぶと思います。休日も
 食費もいざという時に生活していく中、私に
 して、ほんと、安心です。ありがとうございます。

.....本当にありがとうございます。カコロメト
 のチョコレートが子どもが大好きなので、
 それが入っていて喜んでいました。(笑)
 季節物の缶詰も、ほかほか買ってやれない
 ので助かります。シフォンケーキも食卓
 やるくできたら、メーデーお湯を入れば
 自分で作れるお菓子、ありがとうございます。
 苦手なおかず、お肉も、お料理も、
 食卓に揃えたい。お礼の言葉は、お礼の言葉
 まで備えておきます。ありがとうございます。

NPO法人セカンドハート京都ボランティア同様
 お世話になっております。
 いつもお山の 食料品や飲料と
 ありがとうございます。お手紙まで入りました。だいて
 ありがとうございます。
 本当に感謝しております。日々仕事と
 子育てで、追われ日々。皆様の優しさ
 お手紙に、心が、ホッと、いつも生活も
 気持ちも助けていただいています。
 ありがとうございます。皆様の健康と
 幸せを私も願っています。よいお夜...

.....冬休みなどの長期休みのお昼ご飯
 ほとんど、家で、お昼もかまじ、
 シートカレー、チキンラーメンなど
 ずぶく助かりました!!
 コンブローなど自分で、食べさせても
 大丈夫なものばかり助かります。
 皆様に、助けて頂き、感謝の気持ち
 まで、いっぱい、お礼の言葉、
 ありがとうございます!!



特定非営利活動法人 セカンドハーベスト京都

〒605-0018 京都市東山区巽町 442-9

京都市東山いきいき市民活動センター内

Tel 075-601-2100 Fax 075-320-3765

<https://www.2hkyoto.org> E-mail: info@2hkyoto.org